

Title	Prevalence of human papillomavirus in oral gargles and tonsillar washings
Author(s)	曹, 弘規
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/81869
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論 文 内 容 の 要 旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	曹 弘規
論文題名 Title	Prevalence of human papillomavirus in oral gargles and tonsillar washings (うがいと扁桃洗浄によるHPVの感染検出について)
論文内容の要旨	
<p>〔目的(Purpose)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サンプル採取方法やHPV検出法の違いによるHPV検出率を検討し、標準的な咽頭HPV検出方法を検討すること ・ 日本における咽頭HPV感染率を明らかにすること <p>〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕</p> <p>背景：中咽頭へのHuman papillomavirus (HPV) 感染は、同部の癌化に関与しているが、それを評価する標準的なサンプル採取法やHPV検出法は存在しない。また、日本における咽頭HPV感染率も明らかではない。</p> <p>方法：435人の健常者（医療関係者）を対象とした。同一対象者から、うがい液とそれに引き続いて扁桃を洗浄したうがい液の2種類を採取し、それらをnested PCRとGENOSEARCH HPV31の2種類の 방법으로HPV検出を行い、うがい液の採取方法や検出方法の違いによるHPV検出の違いを比較した。さらに、アンケート調査を行い性行動と咽頭HPV感染の相関を検討した。</p> <p>結果：うがい検体でHPV陽性であった被験者の多くは、扁桃洗浄うがい検体でもHPV陽性であった（nested PCR:11/17人(64.7%)、GENOSEARCH HPV31:12/17人(70.6%)）。うがい単独よりもうがいの後に扁桃洗浄を行ったうがいの方が、HPV検出の割合が高かったものの有意差を認めなかった（nested PCR, 4.8% vs. 3.9%, $P = 0.46$; GENOSEARCH HPV31, 5.3% vs. 3.9%, $P = 0.33$）。nested PCRとGENOSEARCH HPV31のHPV検出の一致率は98.6%であり、HPV陽性者の一致率は76.0%であった。被験者全体の咽頭HPV感染率は5.7%であった。高リスクHPVの感染割合が多く感染率は4.4%であった。genotype別ではHPV16が最も多く、HPV16の感染率は1.4%であった。アンケート調査との相関では、男性は有意に女性よりも咽頭HPV感染率が高く(8.3% vs. 2.6%, $P = 0.02$)、生涯性交渉人数や生涯口腔性交人数と咽頭HPV感染は有意に正の相関を示した($P < 0.001$)。</p> <p>〔総括(Conclusion)〕</p> <p>うがい液は中咽頭のHPV検出の標準的なサンプル採取法になりうる。また、GENOSEARCH HPV31はHPV検出法の選択肢となりうる。本邦での咽頭HPV感染率は5.7%であり、男性と性行動が感染に相関している。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 曹 弘規

	(職)	氏 名
論文審査担当者	主 査	大阪大学教授 猪 俣 孝 典
	副 査	大阪大学教授 野々村 祝夫
	副 査	大阪大学教授 久保 盾 貴

論文審査の結果の要旨

【背景】中咽頭へのHuman papillomavirus (HPV) 感染は、同部の癌化に関与しているが、それを評価する標準的なサンプル採取法やHPV検出法は存在しない。また、日本における咽頭HPV感染率も明らかではない。

【目的】サンプル採取方法やHPV検出法によるHPV検出率を検討し、標準的な咽頭HPV検出方法を検討した。

【対象と方法】435人の健常者を対象とした。同一対象者から、うがい液とそれに引き続いて扁桃を洗浄したうがい液の2種類を採取し、それらをnested PCRとGENOSEARCH HPV31の2種類の方法でHPV検出率を比較した。さらに、アンケート調査を行い性行動と咽頭HPV感染の相関を検討した。

【結果】うがい検体でHPV陽性であった被験者の多くは、扁桃洗浄うがい検体でもHPV陽性であった (nested PCR: 11/17人 (64.7%), GENOSEARCH HPV31: 12/17人 (70.6%))。うがい単独よりもうがいの後に扁桃洗浄を行ったうがいの方が、HPV検出の割合が高かったものの有意差を認めなかった (nested PCR, 4.8% vs. 3.9%, $P = 0.46$; GENOSEARCH HPV31, 5.3% vs. 3.9%, $P = 0.33$)。nested PCRとGENOSEARCH HPV31のHPV検出の一致率は98.6%であり、HPV陽性者の一致率は76.0%であった。アンケート調査との相関では、男性は有意に女性よりも咽頭HPV感染率が高く (8.3% vs. 2.6%, $P = 0.02$)、生涯性交渉人数と咽頭HPV感染は正の相関を示した ($P < 0.001$)。

【結論】うがい液は中咽頭のHPV検出の標準的なサンプル採取法になりうる。また、GENOSEARCH HPV31はHPV検出法の選択肢となりうる。

以上の内容は学位に値するものと認める。